



平成25年度群馬県小児等在宅 医療連携拠点事業 (成果報告会)

群馬県健康福祉部医務課
群馬県立小児医療センター
群馬県看護協会

(1) これまでの取組

① 小児医療センター

【関連機関との連携強化】

- ・ 勉強会等の実施

院内スタッフ、訪問看護師、ヘルパー等を対象

- ・ かかりつけ医に関するアンケート調査

渋川保健医療圏の小児科診療所及び在宅療養支援診療所に対する医療資源調査

- ・ 小児在宅用医療的ケアマニュアルの作成

県内の訪問看護ステーション及び二次病院小児科・診療所に配布
マニュアル内容についての実技を含めた研修会

【長期入院患者への対応】

- ・ 在宅支援病棟ラウンドの実施

退院に向けた課題や問題点の共有

【患者家族支援】

- ・ 群馬県小児在宅医療ガイドマップの作成

初めて在宅へ移行する患者家族と医療者のサポートを目的に作製

- ・ レスパイト入院の実施（日中一時支援事業）

(1) これまでの取組 (第1回協議会での報告内容から)

② 周産期医療対策・障害福祉関係

- ・ 要医療重症心身障害児(者)訪問看護支援事業

在宅で医療的ケアを必要とする重症心身障害児(者)に対し、診療報酬の算定限度を超えた回数
の訪問看護を実施

- ・ 在宅医療未熟児等一時受入事業

NICU等長期入院児の在宅医療中の定期的医学管理及び保護者に対する一時支援(空床確保)

- ・ NICU入院児支援事業

NICU入院児コーディネーターの配置

③ 教育関係

- ・ 県立特別支援学校医療的ケア支援事業(運営協議会の運営を含む)

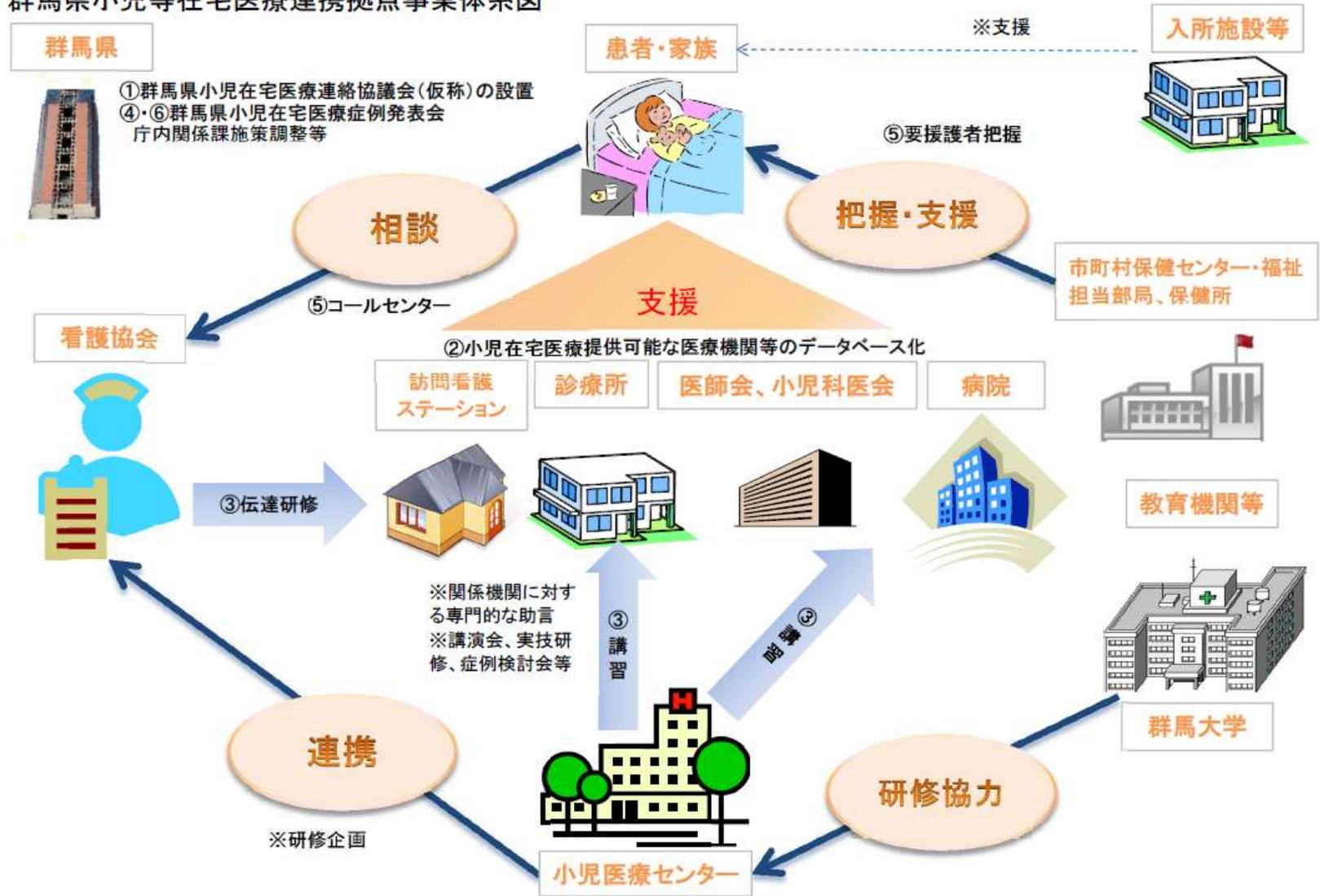
医療的ケアが必要な児童生徒に対して実施施設から看護師を派遣

- ・ 医療的ケア教員等研修

医療的ケアを実施する教員等に対して研修を実施

(2) 小児等在宅医療連携拠点事業

群馬県小児等在宅医療連携拠点事業体系図



① 「群馬県小児等在宅医療連絡協議会」の設置

NICUで長期の療養を要した児を始めとする在宅医療を必要とする小児等が、在宅において必要な医療・福祉サービス等が提供され、地域で安心して療養ができるよう、医療、福祉、教育等が連携し、地域で在宅療養を支える体制の構築を図るため、小児等の在宅医療に係る課題及び対応方針等について協議する。(H25.9.10設置)

構 成 員		
群馬県医師会	前橋赤十字病院	多機能型事業所ぽかぽか
群馬県小児科医会	群馬中央総合病院	群馬県重症心身障害児(者)を守る会
群馬県在宅療養支援診療所連絡会	公立藤岡総合病院	利根沼田障害者相談支援センター
群馬県歯科医師会	桐生厚生総合病院	前橋市福祉部こども課
群馬県薬剤師会	高崎総合医療センター	保健所長会
群馬県看護協会	利根中央病院	中央児童相談所
前橋市医師会	太田記念病院	群馬県教育委員会特別支援教育室
前橋市歯科医師会	群馬県訪問看護ステーション連絡協議会	群馬県病院局総務課
前橋市薬剤師会	希望の家療育病院	群馬県立小児医療センター
群馬大学医学部小児科	西群馬病院療育指導室	群馬県健康福祉部医務課、保健予防課、子育て支援課、障害政策課、薬務課
群馬大学医学部保健学科	はんな・さわらび療育園	
群馬大学教育学部	群馬整肢療護園	

1 連絡協議会での議論の概要①

【レスパイト】

- (1) レスパイト施設が不足している。
特に、土日やGWなど家族が必要とする時に
利用できないことがある。
- (2) 受け入れる病院側ではマンパワー不足が課題
となっている。
- (3) レスパイト入院では、家族以外の付き添いの
ニーズもある。
- (4) 将来的な構想として、在宅型のショートステ
イ等も考えるべき。(第2回)
- (5) 障害者総合支援法の指定を受ければ、地域の
病院も重症心身障害児を短期入所として受け入
れることができる。

1 連絡協議会での議論の概要②

【退院支援】

- (1) 退院後のコーディネーターがない。
- (2) 相談支援事業所がコーディネーターの役割を担うことも可能だが、在宅医療への精通が課題。
- (3) 退院時のコーディネーター役が訪問看護に繋げるかが在宅移行のカギ。
- (4) 医療、福祉及びインフォーマルな支援が必要。
- (5) 退院時の支援体制の構築（訪問看護、保健師等を含めた支援会議の開催等）が課題。
- (6) 早期から在宅移行の検討、在宅移行の時点の見極め、家族への説明等が重要。

1 連絡協議会での議論の概要③

【在宅医療提供体制】

- (1) 小児に対応可能な診療所・訪問看護ステーション等の確保が課題。
- (2) 診療所、地域の中核病院及び小児医療センターの連携が重要。
地域の中核病院と診療所が顔の見える関係が必要。(第2回)
- (3) 成人期に移行する患者の増加が予想され、的確な対応が課題。
- (4) 医療的ケアは成長に応じて変化する。

1 連絡協議会での議論の概要④

【相談・情報提供・状況把握】

- (1) 入院が長引くと母子関係を築きづらくなるため、何らかのケアが必要。
- (2) 小児が利用できる社会的資源が少なく、わかりづらい。
訪問診療やサービスを受けられることを患者家族が知らないのではないか。(第2回)
- (3) 在宅の小児患者の実態把握が困難。

2 課題の整理

- (1) レスパイト機能の拡充
- (2) 退院後のコーディネート機能の充実
- (3) 小児等の在宅医療に対応可能な医療機関
や訪問看護ステーション等の拡充
- (4) 医療資源等の情報提供や相談支援
- (5) 対象児の把握やニーズの把握など継続的
な情報収集

3 施策の方向性

レスパイト機能の 拡充

- 対応可能な医療機関の調査や支援のあり方について、今後検討

退院後のコーディネート機能の充実

- 連携体制のあり方等について今後検討

在宅医療提供体制の充実

- 医療機関、訪問看護ステーション等に対する在宅医療に関する研修等の継続的な実施

情報提供や相談支援の強化

- 医療資源の情報提供や相談機能の充実

継続的な情報収集

- 対象児の状況把握やニーズの把握

4 課題と解決に向けた具体的取組

課 題	(1)これまでの取組	(2)小児等在宅医療連携拠点事業	(3)新たな取組・今後の方向性
レスパイト機能の拡充	周産期医療対策	連絡協議会において、今後の方向性等について検討 1	更に検討
退院後のコーディネート機能の充実		連絡協議会において、今後の方向性等について検討 1	更に検討
在宅医療提供体制の充実	各種研修実施 小児在宅用医療的マニュアル作成等	医師・訪問看護師向け研修 3 シンポジウム開催 4 6	
情報提供や相談支援の強化	医療資源調査 ※一部圏域 がばマップの作成	資源マップ作成 2 訪問看護コールセンター 5 パンフレット作成 6	長期療養児への支援
継続的な情報収集		前橋市モデル事業 5 6	重心アンケート ※その他医療機能調査

②資源マップの作成

1 調査対象

- ・ 病院 57病院（小児病棟を有する病院及び訪問看護事業所登録病院）
- ・ 診療所 677診療所（小児科標榜診療所、在宅療養支援診療所及び訪問看護事業所登録診療所）
- ・ 訪問看護ステーション 115事業所

2 調査時期 平成25年12月

3 調査内容

病 院：外来、緊急時の往診、24時間対応、レスパイト入院、長期入院の状況等

診療所：外来、往診・訪問診療、24時間対応、訪問リハビリの実施状況等

訪問看護ステーション等：対応可能な医療的ケア・身辺介護の内容

4 調査結果の公表方法

県ホームページ、冊子

(参考) 資源マップのイメージ

マッピングぐんま

<http://mapping-gunma.pref.gunma.jp/pref-gunma/top/index.asp>

The screenshot shows the 'Mapping Gunma' website interface. The browser title is 'マッピングぐんま | トップページ - Windows Internet Explorer'. The address bar shows the URL 'http://mapping-gunma.pref.gunma.jp/pref-gunma/top/'. The page content includes a header with the site logo and navigation tabs. A main menu on the left lists categories: '新着情報', 'このサイトについて', 'お問い合わせ先', '統計単位情報', 'お役立ち情報', '公共機関・公共施設情報', '安心・安全情報', '防災情報', '観光・文化・文化財情報', '健康・福祉・医療情報', '自然・環境情報', '農産産情報', '商工業・企業立地情報', and '子育て・教育情報'. The '健康・福祉・医療情報' category is highlighted with a red box. The footer contains the text '群馬県企画情報政策課'.

マッピングぐんま | 位置選択 - Windows Internet Explorer

http://mapping-gunma.pref.gunma.jp/pref-gunma/top/select.asp?dtp=92&pl=3

マッピングぐんま | 地図表示 - Windows Internet Explorer

http://mapping-gunma.pref.gunma.jp/pref-gunma/map/map.asp?dtp=91&mpx=139.115178907374&bsh=821&mpy=36.4309532973224&mps=80000&mtp=1&msz=0&dtpold=92&npg=.&map.asp&mrd=0&bsw

WEB GIS MAPPING GUNMA
マッピングぐんま

検索

選択された「AED設置済み公共施設等」

設置場所
前橋市立まえばし幼稚園
施設設置者
前橋市
住所
前橋市若宮町四丁目32-4

移動
この場所を中心表示
選択図形のみを表示する

ルート検索
ここから出発
ここに行く

○名称
○所在地、連絡先
○医療機能等

前橋市立まえばし幼稚園

群馬県企画部情報政策課

ページが表示されました

インターネット | 保護モード: 有効

100%

メール - ... 平成25年... マッピン... 無題 - ベ... 太郎 - ... Microsoft...

9:52

③人材育成研修

医師向け研修（小児医療センター実施）

県内の小児等在宅医療に関する理解や連携を深め、小児等在宅医療の向上を図るため、県内の小児科医師、在宅療養支援診療所医師を対象に、研修会を行った。

- 1 日時：平成26年3月5日（水）
19：30～21：00
- 2 会場：群馬県庁2階ビジターセンター
- 3 対象：県内の小児科医師
在宅療養支援診療所医師
計605カ所に案内送付、
申込27件（2月28日現在）

③人材育成研修

医師向け研修（小児医療センター実施）

4 研修内容

(1) 「小児在宅医療の基本」

群馬大学教育学部障害児教育講座准教授

吉野 浩之 先生

(2) 「在宅医療的ケアの必要な子どもたち」

群馬県立小児医療センター神経内科部長

渡辺 美緒 先生

- ・在宅医療的ケアを必要とする子どもたち
- ・退院支援
- ・病診連携

③人材育成研修

訪問看護師向け研修 (県看護協会実施)

①パートⅠ

日時：平成25年12月14日(土) 13～16時

参加者：58名

テーマ：「乳幼児専門の訪問看護を通して小児の訪問看護を考える」

講師：訪問看護ステーションベビーノ所長 平原真紀氏

②パートⅡ

日時：平成26年2月1日(土) 13～16時

参加者：63名

テーマ：「社会資源・制度」「小児の在宅における医療的ケア」

「小児を受けるための準備～リハビリの視点から」

講師：群馬県立小児医療センター母子保健室 宮内紀代美氏

在宅療養支援看護師長 宮川祐子氏

群馬県看護協会 訪問看護ステーション高崎

理学療法士 井野口由香利氏

作業療法士 勝野恵氏

パート I 研修アンケートより

- 小児の訪問経験が少なく**苦手意識が強かったです**が、やりがいという面が私の中では大きくなり、**積極的に関わっていききたいな**と思いました。
- 小児に携わっていないため、**小児の訪問看護がどのようなものか理解でき、さらに興味をもてました。**
- **各地域のステーションが連携して小児を支えていく必要がある**と感じました。
- 在宅で小児を受け**る訪問看護師を対象とした研修に加え、病院側の看護師や地域連携室などと一緒にできる研修を企画するとよい**と思います。

パートⅡ 研修アンケートより

- 今まででは何もわからず、小児に関わることに抵抗を感じていたが、今回の研修を通し緩和された。
- わからないことも多く不安もあるが、小児に関わってみたいという気持ちが強くなりました。
- 小児の医療的ケアの実際を知ることができ、苦手意識が強かった小児への関わりに少し抵抗がなくなったと思います。
- 今まで小児の訪問看護は自分が不慣れということもあり、苦手意識があり、家族の辛さを考える余裕がなかったように思います。今回、家族の思いの過程なども考えて支援できることが大切だと感じました。

④ 「小児等の在宅医療を考えるシンポジウム」

NICUから退院して地域で在宅ケアを受けている患者及び家族の支援するため、本県の医療・福祉・教育・行政等の関係者が集い、連携のあり方を考えます。

1 日 時：平成26年1月26日(日)

13:30～16:00

2 場 所：群馬会館2階ホール

3 参加費：無料

4 対 象：二次病院の小児科関係者(医師、看護師等)

開業医(小児科医師、在宅療養支援診療所医師)

訪問看護ステーション、各市町村保健師

教育委員会関係者(特別支援学校関係者を含む)

教育機関、療育病院・入所施設関係者

障害福祉関係者、児童福祉施設関係者

県在宅医療推進部会委員

患者家族など



5 プログラム

(1) 主催者挨拶

(2) 基調講演 「地域で支える小児在宅医療」

講師 さいわいこどもクリニック 宮田章子 先生

(3) 事例発表

- | | | |
|-------------|------------------|----------|
| ・ 拠点事業説明 | 群馬県健康福祉部医務課長 | 川原 武男 |
| ・ 病院の立場から | 群馬県立小児医療センター新生児科 | 市之宮 健二 氏 |
| ・ 開業医の立場から | ベル小児科クリニック院長 | 鈴木 雅登 氏 |
| ・ 訪問看護の立場から | 訪問看護ステーション愛の家管理者 | 阿久沢とも子 氏 |
| ・ 保健師の立場から | 前橋市福祉部こども課課長補佐 | 宮田 典子 氏 |
| ・ 教育の立場から | 群馬県教育委員会特別支援教育室 | 町田 英之 氏 |

(4) パネルディスカッション

「小児等の在宅患者を支える医療・福祉・教育等の連携のあるべき姿」

- | | | |
|------------|------------------|----------|
| ・ コーディネーター | 群馬大学教育学部准教授 | 吉野 浩之 氏 |
| ・ パネリスト | さいわいこどもクリニック院長 | 宮田 章子 氏 |
| | 群馬県立小児医療センター新生児科 | 市之宮 健二 氏 |
| | ベル小児科クリニック院長 | 鈴木 雅登 氏 |
| | 訪問看護ステーション愛の家管理者 | 阿久沢とも子 氏 |
| | 前橋市福祉部こども課課長補佐 | 宮田 典子 氏 |
| | 群馬県教育委員会特別支援教育室 | 町田 英之 氏 |

小児等の在宅医療を考えるシンポジウム参加者内訳

	前橋	高崎 ・安中	渋川	藤岡	富岡	吾妻	沼田	伊勢崎	桐生	太田・館 林	県外	計 (職種)
医師	5		6					1	1	2	2	17
歯科医師								2				2
薬剤師	2	1	1					1		4	1	10
看護師	21	7	10	2			1	1	1	4	3	50
MSW		3										3
理学療法士	1	5	1			1		2	1			11
作業療法士		1										1
言語聴覚士		1										1
保健師	7	1	4			1			2	1		16
ケアマネジャー	1											1
福祉関係	1	2	1	2			1		1	4		12
教育関係	8	6	2	1								17
学生	5											5
一般	2											2
行政	21		4									25
マスコミ	1											1
計(地域)	75	27	29	5	0	2	2	7	6	15	6	174

病院、学校 連携を

小児在宅医療でシンポ 前 橋

在宅医療が必要な子どもとその家族を地域で支える体制づくりをテーマにした「小児等の在宅医療を考えるシンポジウム」が26日、前橋市の群馬会館で開かれた。最前線に立つ医師の講演や関係者によるパネルディスカッションを通じて、参加者は小児在宅医療の課題について学んだ。

小児在宅医療に約10年取り組み続けている、さいわいこどもクリニック(東京の宮田章子院長が基調講演し、現状や課題を説明。「医療

ただでなく生活一般を支えていかなければいけない」と述べ、病院や開業医、訪問看護、学校など関係者の連携の必要性を強調した。

パネルディスカッションは「小児等の在宅患者を支える連携のあるべき姿」との演題で行われた。群馬大教育学部の吉野浩之准教授がコーディネーターとなり、宮田院長のほか県立小児医療センター新生児科の市之宮健二さん、ベル小児科クリニックの鈴木雅登さん、訪問看護ステーション

愛の家管理者の阿久沢とも子さん、前橋市こども課の宮田典子さん、県教委特別支援教育室の町田英之さん5人がパネリストを務めた。

パネリストから子どもを一時的に預ける「レスパイト」に対応できる医療機関が少ないことが県内の課題として挙げられ、会場からは「在宅医療を支える社会資源について情報がほしい」と要望が寄せられていた。

県は本年度、国の委託を

受けて、県と県立小児医療センター、県看護協会を中心に子ども在宅療養を支える体制づくりを進めている。シンポジウムはその一環で企画した。



小児在宅医療の課題について意見を交わすパネリスト

重度障害児の支援連携

1/23 毎 県事業 前橋で26日シンポ

重度の肢体不自由と知的障害を持ちながら在宅で生活する子供らに支援しようと、県は今年度から、地域の診療所や訪問看護ステーションなどの連携事業を進めている。26日には前橋市内でシンポジウムを開き、地域連携のあり方を模索する。

県障害政策課によると、県内の重度心身障害児(者)は約700人(2012年度末)で、そのうち約340人が在宅で生活している

と見られる。県内の重度心身障害児の診療は、新生児集中治療室(NICU)を持つ県立小児医療センター(渋川市)が中心に担う。しかし、地域の医療機関に、重度心身障害児の診療や治療経験が少ないことから、成人しても同センターに通院し続ける「キャリアオーバー」などの問題がある。

このため県は今年度から、厚生労働省の補助事業として「県小児等在宅医療連携拠点事

薬」を開始。同センターや県看護協会とも連携し、医師や看護師への研修を実施するほか、小児などへの在宅医療に対応する地域の診療所や訪問看護ステーションなどをデータベース化し、県のホームページで公開する準備も進めている。

26日のシンポジウムは、前橋市大手町2の群馬会館で午後1時半から開催。東京都立川市で病児保育や障害児の在宅診療に関わってきた医師を講師に迎え

上毛新聞 →
(H26. 1. 27)

毎日新聞 →
(H26. 1. 23)

て基調講演を行う。また、同センターを退院し前橋市内で在宅で生活する子供たちに、市内の開業医や訪問看護ステーション、市担当者などがそれぞれどのように関わっているかを紹介する事例報告なども行う。参加申し込みは県医療課(027・226・2151)へ。

【塩田彩】



⑤訪問看護コールセンター、パンフレット作成

(県看護協会実施)

開設日および運営体制

- ・ 開設日：平成25年12月9日
(相談件数 平成26年2月末現在 0件)
- ・ 担当職員：1名
- ・ 相談日時：月曜～金曜日 9:30～16:30

設置場所および事業内容

- ・ 設置場所：公益社団法人 群馬県看護協会内
- ・ 事業内容：電話相談準備、対応マニュアル作成、
電話相談

群馬県看護協会ホームページに

「群馬県子どもの訪問 看護コールセンター」開設をPR

⑤ 訪問看護コールセンター (県看護協会実施)

群馬県訪問看護コールセンター

文字の大きさ 大 中 小

訪問看護コールセンターについて 訪問看護の利用を考えている方へ ステーション一覧 関連リンク Q&A

群馬県子どもの訪問看護コールセンターを開設しました

「子どもの訪問看護」の相談を始めました。なんでもご相談ください。
相談無料・秘密厳守
相談日：月曜日～金曜日 9:30～16:30
電話 027-230-2002 FAX 027-230-2003
〒371-0007 群馬県前橋市上泉町1858-7
群馬県看護教育センター（群馬県看護協会）内
<http://www.houmonkango-cc.jpn.org>

訪問看護の利用を考えている方へ

群馬県訪問看護コールセンター
〒371-0007
前橋市上泉町1858-7
TEL: 027-230-2002
FAX: 027-230-2003

群馬県 訪問看護コールセンター 訪問看護についての相談を受けます!
● 相談無料 ● 秘密厳守

連絡先 TEL: 027-230-2002 FAX: 027-230-2003
〒371-0007 前橋市上泉町 1858-7

相談日時 [火曜・水曜日] 9:30～16:30
[月曜日/第2、4] 9:30～11:30

訪問看護ステーションを探す



※ご覧になりたい地域を地図上から選択してください。

ページの先頭へ

⑤パンフレット・リーフレット・DVDの作成

(県看護協会実施)

配布予定先

- 県内訪問看護ステーション
- 訪問看護利用者家族
- 関連病院
- 行政
- 福祉施設等に配布

作成数

- DVD
「群馬県子どもの訪問看護PR映像」 600枚作成
- パンフレット
「群馬県『子どもの訪問看護』活用ガイド」 5,000部作成
- リーフレット
「群馬県『子どもの訪問看護』活用ガイド」 10,000部作成



⑥ 「前橋市モデル事業」

小児等在宅医療の課題について、患者・家族から直接生の声をお聞きすることで実態把握を一層的確に行うとともに、保健師による地域への働きかけをきっかけとして、患児を取り巻く医療・福祉・教育等の関係者の関係構築のあり方を検討するため、前橋市の全面的な協力により、調査を実施します。

項目	内容
概要	あらかじめ御家族の了解を得た上で、前橋市の保健師等が御自宅を訪問し、小児等の在宅医療の推進を図る上での課題等について聞き取り調査を行う。
調査対象	小児医療センターを退院し、前橋市内にお住まいの患者家族
調査時期	平成25年12月～26年1月末
調査内容	生活支援、移動支援、医療支援、教育支援及び相談支援の観点から、患児の現状や受診状況、サービスの利用状況等の基礎的な情報を踏まえた上で、在宅医療を推進する上での課題を聴取する。

調査取りまとめ（中間報告）

【保護者の声】

- ① 情報が得にくい。
 - ・ 必要な時に使える（可能性のある）サービスの情報など
- ② 緊急時の対応に不安がある。
 - ・ 母の病気等体調不良で世話ができない時
 - ・ 家族が感染性の病気に罹り児を退避させたい時
 - ・ 自然災害発生時の生活の場の確保・機器の管理・医療等
- ③ 相談先・担当部署がよく分からない。
- ④ 同じような環境で共感しながら話せる人・場所が欲しい。

【保健師の声】

- ① ケースについて
 - ・ 児を取り巻く新たな問題の発見につながった
 - ・ 生活スケジュールから生活全体が把握でき、サービス利用調整の必要なところや問題点に対する支援の調整先が整理できた
 - ・ 家族は制度やサービスを知らされていなければ質問すらできない
- ② 連携について
 - ・ 前橋市の他部署保健師等関係者との連絡連携が必要
 - ・ 関係機関（医療・福祉・教育等）との連携が不足している

5 来年度以降の対応

- 1 小児等在宅医療連絡協議会を継続して運営
 - …新たな課題の抽出や、対策等の検討
- 2 医師向け研修
 - …小児科医や在宅医を対象とした人材育成
- 3 看護師向け研修
 - …小児の訪問看護の受け入れ意識が高められるよう、
管理者・中堅者の研修
- 4 「群馬県子どもの訪問看護コールセンター」
 - …継続して周知及び利用の促進
- 5 パンフレット・リーフレット・DVDの普及